



中村ロータリークラブ

例会記録 (2024～2025)

会 長/嶋 村 晃

幹 事/山 崎 隆 之

会報委員長/大 塚 和 助

創 立/昭和38年10月2日

例会日/水曜日 12:30～13:30

例会場/新ロイヤルホテル四万十

事務所/四万十市中村小姓町46番地 中村商工会館2F

TEL 0880-35-4551 FAX 0880-35-4553

●ホームページ <http://www.nakamura-rc.com/>

週報 No.2826

第2957回 令和7年3月5日（曇りのち晴れ）

本日のプログラム：会員スピーチ 大塚和助会員

3月12日(水)：美化ゾーン清掃例会

3月19日(水)：会員スピーチ 川村公彦会員

【会長挨拶】嶋村 晃会長

第二次世界大戦で、サイパン島がアメリカ軍の手に落ち、さらにマリアナ沖海戦で日本海軍は大打撃を受け、パラオのペリリュー島が矢面に立たされました。島民たちは日本軍と一緒に戦うと決め、代表数人で中川隊長の許に向かいます。島民からこのことを伝えられた中川少佐は「誇り高き日本帝国軍人が貴様ら”土人”と一緒に戦えると思っているのか。失せろ。」

島民の代表たちは泣きながら帰途につきます。日頃から平等で兄弟分だと言っていた日本人に土人呼ばわりされたことが悔しかったのです。日本人に裏切られたことが悲しかったのです。

そして船が岸壁を離れたその時ジャングルの中からハーモニカの音色が流れてきました。日本軍兵士全員が、日本の歌を歌いながら手を振っています。中川大佐の発言は、自分たちを戦渦に巻き込まれないようにするための発言だったと気づいた島民たちは、あふれる涙を無拭う暇も惜しんで手を振り続けました。その中には涙をこらえながら笑顔で歌っている中川大佐の姿もあったということです。現地の人々はその顔を今でも覚えていると語っていました。

【幹事報告】山崎 隆之幹事

・ガバナー事務所より

1) ガバナー月信 3月号回覧

2) 青少年奉仕委員会より第47回青少年少女キャンプチラシ拝受

・宿毛RCより「愛石」拝受

・四万十市より

四万十川一斉清掃参加のお願い

4/13（日）8:00～9:00

【委員会報告・会員発言】

明神米山奨学委員長

米山記念奨学事業に対し、例年どうりご寄付のお願いです。何卒ご協力の程お願いします。

青木R財団委員長

続きましてロータリー財団への協力もお願いします。できましたら、地区協議会までにくるか集まると、クラブとしての顔がたちます。よろしくをお願いします。



【本日のプログラム】 会員スピーチ 大塚 和助会員



地区長期戦略委員会について

皆さんこんにちは。上野プログラム副委員長よりスピーチを頼まれました。最初は本田先生にお願いしたようですが、原稿準備に6ヶ月くらいかかると言われたそうです。10数年くらい前に本田先生のスピーチを聴きましたが実に面白いお話でした。今年の秋頃には是非お話してください。

さて、私は現在、地区の長期戦略委員長を拝命しております。この委員会は代表幹事の輪番制で、たまたま本年度と次期の委員長をやる番となっています。現在の問題点を見つめ直し、5～10年後を見据えたロータリーの在り方を検討せよという事です。

地区のガバナー事務所を運営するに当たり、近年、様々な問題が起こっております。まずは会員数の減少です。第2670地区は、10年前は約3,000名いましたが、現在は2780名名です。昨年度、1クラブ解散し73クラブとなりました。それで、一番の問題は地区の財務状況です。ガバナーは一年交代で、地区運営も一年ごとに引き継がれていきますが、これまで通りの予算が立てられない状況になっています。原因は、会員数の減少に伴う分担金の減少と、会場費や食料費、交通費など、すべてが物価高となってきたにも関わらず、地区の活動は見直しとか改革できずに慣例として大概の事業を引き継ぎながらやっています。当然資金不足となるわけですが、そこを何とか見直そうということで、長期戦略委員会で立案なさい、ということです。

現在、取り組んでいるのは、地区大会を3日間から2日間開催（ゴルフと本会議）。また伝達事項を郵送からメール配信（事務局員の簡素化）。

ガバナー月信を紙からネット配信（賛否あり）。会議の簡素化としてウェブ会議を増やす等です。

また、事務所（ガバナー事務所と支援事務所）の効率化など課題は様々です。最終手段として、数年後には会費の値上げも止むを得ないと考えられます。これらは地区の問題であると同時に、各クラブにおいても同じ課題となっています。

毎年、会員増強が最重要課題となっていますが、各クラブとも苦勞しており、地区内で会員数20名以下が15クラブもあり、運営に大変苦勞されているのが現状です。

もう一つ重要は事は、5年前のコロナ禍により時代は大きく変化しました。やはりロータリーも時代とともに変化しないといけないと思います。田舎町の零細企業の経営者ではあるが、皆さん最も大事な時間とお金を使って入会しています。やはりそれなりの対価を払っても、何か魅力がある組織でないといけません。

「ロータリーは奉仕活動」といわれています。自分の利益を追求せず、他者や社会のために無償で行う行為とあります。具体的には、ボランティア活動、地域の清掃活動、福祉施設での支援活動などが含まれます。私個人の考えは、中村クラブに入会し、皆人と出会い、自分の心を高めていく修練の場としてとらえています。人間いくつになっても向上心は衰えません。

戦後、日本の急成長に合わせて急激にロータリアンが増えていますが、原因は職業奉仕の理念と親睦だそうです。職業奉仕は仕事をまっとうする事によって社会から信用され、また認められる人になる事、つまりその精神論が日本人の「義理人情・人を裏切らない・りっぱな人間になる＝ロータリアン」という理念にぴったし当てはまったように思います。

ただ、時代がどう変わろうとも、崇高なロータリーの奉仕理念は変わることはありません。

ご静聴ありがとうございました。

【ニコニコ箱】

小松会員：娘のお祝いありがとうございます。

上野会員：大塚会員、ロータリーの勉強になるスピーチありがとうございました。

本田先生、半年後に向けてお願いします。

【出席報告】 ・会員総数59名（免除会員6名）

・本日の出席/33名 68.75%

・先週の訂正 M4 83.67%→91.84%